

# 東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

記入日: 8/31/2018

■参加プログラム: IARU Global Summer Program

COP3: New Urban Life Across the Globe: Activism and Change in a World of Cities

■プログラム情報: <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-IARUGSP.html>

■派遣先大学: コペンハーゲン大学

■プログラム期間: 7/23/2018 ~ 8/3/2018

■東京大学での所属学部・研究科等: 工学部

■学年(プログラム開始時): 学部3

## ■参加にあたってこの時期を選んだ理由:

私の学科では必修の授業を欠席することができず、夏学期の授業が終了してから開始するプログラムである必要があった。

## ■参加を決めるまでの経緯:

GEFIL でサマースクールへの参加が必須であったほか、昨年参加したオックスフォードの IARU サマースクールがとてもよかったため。

## プログラムについて

### ■概要:

2週間のプログラムで、1日に3~6時間ほど行われる授業がベース。コペンハーゲン市内での市民活動を見に行くフィールドワークもある。学生の半数は現地のコペンハーゲン大学生であり、コペンハーゲン大学の授業に残り半数の海外勢が参加しているような形。そのため授業以外の企画はなく、授業終了後はそのまま解散してしまうことが多かった。これに関しては昨年参加した、全員海外勢で全員同じ寮に滞在する形だったオックスフォードの IARU プログラムとは全く違ったので新鮮であった。それでも一部の日には現地生が海に連れていってくれたり、現地ならではの楽しみを経験できたのは良かった。

### ■学習・研究以外の活動で取り組んだもの:

取り組んでいない

### ■学習・研究以外の活動で取り組んだものの内容、または取り組まなかった理由:

プログラム中は授業で忙しく、特に考えなかった。

### ■週末の過ごし方:

2週間の合間の週末のみ観光する時間があつたので、一日は市内を観光し、もう一日はプログラムの課題に取り組んでいた。

## 派遣先大学の環境について

### ■設備:

比較的新しい South Campus で授業を受けたため、設備は新しく充実していた。夏期休業中なので学生は少ないが、図書館や食堂などは開いていた。

### ■サポート体制:

特に精神面や語学面でのサポートは用意されていなかったが、生活面で困ることがあれば TA に聞くことができた。

## プログラム期間中の生活について

### ■ 宿泊先の種類:

友人宅

### ■ 宿泊先の様子、どのように見つけたか:

昨年参加したサマースクールで知り合った友達の家に泊めてもらった。

### ■ 気候、大学周辺の様子、交通機関、食事等:

日本同様に今年の夏は酷かったが、エアコンの文化がないデンマークでは屋内でも暑く少し大変であった。コペンハーゲン世界的にも住みやすい都市として知られており、治安や交通などの面では特に問題はなかった。物価の高さは有名で、外食にかかる費用は想像以上であったが、安い学食と家での自炊(スーパーはそこまで高くない)で乗り切ることはできた。

### ■ お金の管理方法、現地の通貨事情:

デンマークではほとんどの支払いをクレジットカードで行うので、現金はほとんどもっていかなかった(DKK200程度)。

### ■ 治安、医療関係事情、心身の健康管理で気をつけたこと等、危機管理:

特になし。

### ■ 自由時間に利用した交通手段:

列車, バス

### ■ プログラム期間中に利用したネット環境:

キャンパス Wifi, SIM

## 参加前の準備・手続きについて

### ■ プログラムへの参加手続き:

IARU のサマースクールであるため、国際交流課へ志望動機などを記した申請書の提出が必要。

### ■ ビザの手続き:

必要なし

### ■ 医療関係の準備:

2週間程度のプログラムだったのもあり、これといった準備は特になかった。

### ■ 保険関係の準備:

大学の指示にしたがい付帯海学に加入した。

### ■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続き:

履修や試験には支障は出なかった。申請書を提出する際に事務室のサインが必要だったが、それ以外の手続きは特になし。

### ■ 語学関係の準備:

TOEFL iBT 114 点。申請書提出時に以前受けた TOEFL スコアの有効期限が切れていたため、受けなおす必要があった。

## 費用・奨学金に関すること

### ■参加するために要した費用:

航空費	140000 円
派遣先への支払い(授業料・施設利用料など)	0 円
教科書代・書籍代	0 円
海外留学保険料(東京大学指定のもの)	7000 円
保険・社会保障料(留学先で必要だったもの)	0 円

### ■その他、補足等:

### ■留学先で費やした生活費:

家賃	0 円
食費	14000 円
交通費	5000 円
娯楽費	5000 円

### ■その他、補足等:

友達の家で宿泊していたため家賃はかからなかった。

### ■プログラム参加のための奨学金の受給有無:

受給した

### ■奨学金の支給機関・団体名等:

GLP-GEfIL

### ■受給金額(月額):

100000 円

### ■受給金額についての補足等:

### ■奨学金をどのように見つけたか:

大学(上記以外)からの案内

## プログラムを振り返って

### ■プログラムに参加したことの意義、その他所感:

工学部の私にとっては、今回のサマースクールで何度も取り上げられた社会科学の theory はまったくもって新鮮で、とても学ぶことが多かったように思う。

### ■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響:

キャリアについての考え方に与えた影響はあまりなかったと思う。

### ■進路・就職先(就職希望先):

民間企業

戦略コンサルティング

■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス:

早めに情報収集を開始することをお勧めします。また、このプログラムは2週間程度、授業料免除など、他のプログラムと比べれば金銭的には挑戦しやすいものであると思います。社会科学の授業を以前に何度か受けたことがあった方が良いでしょう。

■準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト、出版物:

国際交流課ホームページ